

すっかり気温も低くなり、冬が近付いてきた気配がします。幼稚園の子供たちは、色付いた葉っぱを拾いながら登園してくる毎日です。皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日はお忙しい中、中之町幼稚園の研究保育にお越しいただきまして、ありがとうございました。幼稚園教育が学びの基礎となり、小学校・中学校へつなげていけるよう、今度も努力してまいります。赤坂アカデミーの子供たちのために、今後も連携していきましょう。よろしくお願いいたします。

1 第3回アカデミー研究保育記録

活動「グループ対抗タワーゲーム」 年長宇宙1組 河原貴恵、宇宙2組担任 益子智佳

◎協議会では、テーマに沿って話し合いを行いました。

○「小学校・中学校へつながる保育の中の学びについて」

- ・算数科とのつながりでは、箱の大きさ、高さ、厚みなどに気付いて組み替える様子が見られたり、タワーの高さを紙テープに置き換えて比べるということを行ったりした。図に置き換えるということを経験しておくのは良いのではないかと。
- ・幼稚園では「おやま座り」、小学校では「体育座り」と呼ぶなど、教師が知っておくと接続期にいかせることがあると感じた。
- ・年長の芋づるのリースと、小1の朝顔リースの経験など、「やったことがある」と思える経験があるのは良いと思った。

○コミュニケーション力

- ・幼稚園でどこまで求めるのかという点において、「自分の意見を持ち、それを相手に言葉にして言う」という段階は、小学校低学年の姿と照らし合わせると、適当である。幼稚園では感覚的に学んでいるが、小学校では国語科の中で、段階を追って文法や方法を学び、身に付けていっている。
- ・中学生は思春期の難しさがあり、身に付いていても表せない(挨拶をしない、自分の意見を言わないなど)ことがある。「そうすると良い」という感覚を、幼稚園のうちに育てておくことと、思春期以降にまた表せるようになるのではないかと。
- ・幼児それぞれの姿(発言の多さなど)は、親子のコミュニケーションも大きく影響しており、親が先に話し過ぎると子供はあまり話さなくなる、という姿も見られる。

○特別な配慮を要する幼児の活動について

- ・教師間の引き継ぎがしっかりとできるように、ざっくばらんに情報を伝え合うことが必要である。中学校では、教科ごとに教師が変わり、授業によって様子が異なる生徒もいるので、情報共有が大事である。
- ・学級経営の中で、配慮が必要な幼児を認めていく雰囲気作りが大切である。

※発表の内容以外でも、「教師の発言の中で、『高さ』と『長さ』が混同していた」「箱を置く土台が低いほうが良いのではないかと」などのご意見をいただき、研究保育以降にいかしてきました。ありがとうございました。現在の最高記録は180cmで、今後も更新していきそうです。

2 今後の予定について

- ・赤坂アカデミーを紹介するリーフレットを作成しています。港区のHPに掲載後、コーディネーターより通知いたしますので、ご覧ください。
- ・3月にコーディネーター連絡会において、1年間の取り組みについて報告会があります。